### 平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 NPO法人 熊本まちづくり

代表団体名

事業名称 地域のソーシャルキャピタル (地域力) を豊かにするユビキタス見守りネットワーク (ひご優ネット) の構築

### 1 事業実施概要

近年、地域社会に於けるコミュニティーの希薄化や連帯意識の低下などからくる地域力 (ソーシャルキャピタル) の衰えとともに、「見守り活動」のような互助機能が低下してきている。

高齢化が進行し独居高齢世帯が増える地域社会に於いて、弱者(高齢者・子ども、など)が安心・安全に生活するための「見守り活動」を支援し、地域力を向上させる「ユビキタス見守り情報ネットワーク」を構築した。主な構成は、①みまもりポータルサイト、②みまもり管理システム、③ユビキタスみまもりシステムから成る総合的な(ひご優ネット)を開発した。また、地域の人的資源によって当システムを活用し地域の「見守り活動」を担う、ICT リーダー、及び ICT 利活用人材の育成プログラムを開発し実施した。

### 2 目標の進捗状況

### (1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等	
ユビキタスシステム	10名	7名	^	利用者登録数	
の利用者数 (対象者)			$\triangle$		
ユビキタスシステム	50名	58 名		利用者登録数	
の利用者数(見守り			0		
隊)					
見守り情報ポータル	1,000/月	842/0.5月		アクセス数・サーバーカ	
サイト・アクセス数		(1,684/	0	ウント (23/3/1~3/	
		月)		15 の 0.5 月間の運用)	

### (2) 進捗率の理由 (達成状況が△又は×の場合はその理由)

平成23年2月28日までは試験運用の状態であり、3月1日から3月15日の半月間の利用を調査したため、今後は十分に目標数値を上回る見込みである。

### 3 事業による成果

(1) 事業による成果 (アウトプット指標)

項目	成果指数	備考(成果指数の説明等)	調査時期		
1、見守り隊の数(看	7 グループ	ユビキタス見守り連絡シ	平成 23 年 3 月 1		
護師、介護施設、地域		ステムを利用する「見守	日~平成 23 年 3		
団体、ボランティア等	]体、ボランティア等		月 15 日		
で構成)		数			
2、見守り隊参加者登	55 人	登録参加者数	平成 23 年 3 月 1		
録数			日~3月15日		
3、利用件数(アクセ	1,960 件		平成 23 年 3 月 1		
ス数、緊急対応件数な			日~3月15日		
ど)					
4、情報配信数	1,274 件	福祉等の施設数およびイ	平成 23 年 3 月 1		
		ベント等の記事数	日~3月15日		
5、携帯電話の数(端	42 台	登録台数	平成 23 年 3 月 1		
末、在宅システムな			日~3月15日		
ど)					
6、見守り携帯電話ア	10.31%	携帯電話アクセス数/	平成 23 年 3 月 1		
クセス率		見守り隊アクセス数	日~3月15日		
7、パトロール回数	146 件	報告件数	平成 23 年 3 月 1		
			日~3月15日		
8、一人当たりの利用	5.76 回	見守り隊アクセス数/見	平成 23 年 3 月 1		
頻度・リピート率		守り隊参加登録者数	日~3月15日		
9、実施主体	NPO 法人熊本まちづ				
	< り				
10、利用者数	842 人	ポータルサイトアクセス	平成 23 年 3 月 1		
		数	日~3月15日		
11、ICT 人材育成人数	278 人	出前講座参加人数とeラ	平成 23 年 3 月 1		
		ーニング登録人数	日~3月15日		
12、プログラム数	10 講座	e ラーニング講座数	平成 23 年 3 月 1		
			日~3月15日		
13、プログラム開催回	10 回	出前講座、パソコン講座	平成 23 年 3 月 1		
数(講演会、実地演習		等の実施回数	日~3月15日		
など)					

### (2) 事業による社会的効果等 (アウトカム指標)

項目	事業成果	調査内容	 算出方法	調査時期
	対象者の数は 7 名である	アンケート調	利用者登録数	平成 23 年 3
守り発生数	が、システム利用しての満	査に於いて利	&アンケート調	月1日~3月
	足度的なアンケート割合	用者の満足度		15 日
	は80%と高評価である。	を調査した		
2、異常時の	期間中に異常事態の発生			平成 23 年 3
連絡件数 (事	件数は0件であったが、シ			月 1 日~3 月
案発生事案	ステム利用の満足度は	同上	同上	15 日
発生)	80%であった。			
3、徘徊等に	期間中は試験的な試行で			平成 23 年 3
対する見守	あったが、アンケートの満	同上	同上	月 1 日~3 月
り対応件数	足度は 100%と高い。			15 日
4、家族の主	アンケートの満足度は			平成 23 年 3
観的安心度	100%と高い。	同上	   アンケート調査	月1日~3月
向上率(実		旧上	ノングード調査	15 日
感)				
5、民生委員、	アンケートの満足度は			平成 23 年 3
家族の見回	80%である。	同上	同上	月1日~3月
り負担軽減		IH 1L	IH] IL.	15 日
率				
6、受講者の	アンケートの満足度は			平成 23 年 3
主観的理解	80%である。			月1日~3月
度向上率 (実		同上	同上	15 日
感)【単独指				
標】				
7、受講者の	アンケートの満足度は			平成 23 年 3
客観的理解	80%である。	同上	同上	月 1 日~3 月
度向上率		I⊢1 T	IH) IL	15 日
(率)				

### 4 システム設計書

別添2のとおり。

### <システム運用結果>

### 1 システム運用で得られた成果

直接的な成果以外に、当事業の本来の目的である関係者間・地域社会のコミュニティーのツールと しても大いに役に立つシステムである事が、関係者の評価から証明できた。

### 2 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

- ① 福祉介護関係者間の対象者に関する情報の連絡と共有は重要かつ必要であるが、便利なツールで有るが故に、必要以上の連絡対応等の関係者の対応業務が増加する事と成るが、関係分野は業務過多傾向であり対応が不可能な状況である。事業期間中の関係者での議論によると、見守り連絡情報の緊急度・重要度などによる管理・選択をするワンストップ役を、例えば「NPO熊本まちづくり」が受けて、重要で必要な情報を福祉介護の専門事業者・関係者に連絡するなどの方法ができないかと言う案が浮上している。(説明図・資料-1を参照)
- ② 当システムで扱う情報の全てが個人情報に関するものである事から、個人情報の取り扱いや運用・ルールに関して、同意や安全性・セキュリティーに関する運用上のルールの確立が今後の課題である。

### 3 自律的・継続的運営の見込み

本事業では、地域力(ソーシャルキャピタル)を豊かにするためにICTを利活用した「ユビキタス見守りネットワーク」システムを構築して、地域住民や高齢者と離れて生活する家族などや、福祉介護医療関係者間の連絡と情報の共有に効果的なシステムであると評価された。今後は、関係者の当システムに対しての更なる期待や待望・興味などの声が寄せられていて、汎用性・拡張性・機動性などに関しシステムを便利で役立つものとして成熟させ高度化を図る必要がある。

継続的なシステムの保守・改良などの運営は、当NPOが主体的に関係機関・団体と協働して行う 予定であるが、資金的な課題は内包していて利用者からの課金や広告料・寄付などを検討して行く事 も重要視される。

### 4 今後の展開方針

本年度事業に於いて、これまでにNPOが活動し取り組んできた複数の地域活動に関するソフト面のノウハウを、統合的にシステム化する事ができた。しかし、そのコンテンツは人の生活・行動に関することが主であって、曖昧であり微妙で慎重を要し、数か月の短期間に於いて完成度を満属するシステムの構築は不可能であり、一定期間やあらゆる想定状況での試行の繰り返しが必要である。叉、最もICTを有効に活用できる場面、ICT利活用の効果的で高度に繊細な活用法である。

更に今後は、一定期間を要してあらゆる状況・場面に於いて当システムを活用して完成度を高めて 行き、予想される将来の高齢化の事態に対応できるシステムを構築して、介護福祉分野の情報化の推 進と介護福祉サービスの充実・改善へとつながる展望が期待できる。

### 5 その他

(事業実施状況の写真・資料 - 2、事業概要図・資料 - 3(1/2)、(2/2)、を添付)

### <人材育成状況説明書>

- ①申請主体における I C T 人材の育成・活用内容
- 1 ICT人材の育成人数
  - 1 今回の事業において育成した I C T 人材の人数 278 人 (出前講座、e ラーニング登録数)
  - 2 既存のICT人材を活用:上記の内、住民4名 ICT技術者15名

### 2 ICT人材の育成方法

- 1 NPO が熊本市社協、尾ノ上校区社協、健軍自治会、協議会委員、菊池市社協、ICT 業界に依頼カリキュラムは、情報通信技術分野について 5 講座、福祉分野について 5 講座、合計 10 講座を用意 (A:情報技術分野、①通信情報技術の基礎知識、②情報セキュリティ・個人情報、③データベース管理、④まちづくりのための地理空間情報、⑤見守りシステムの活用法、B:福祉分野、①社会福祉の歴史を知ろう、②地域福祉「らしさ」を求めて一基礎編、③地域福祉「らしさ」を求めて一制度編、④介護保険制度についての基礎知識、⑤高齢者の理解教材等は、インターネット上の学習システムに以下の内容を組み込んだ。
  - ◆ビデオを含む多様な学習教材、◆学習の進捗管理機能、◆確認テスト機能、◆成績管理機
  - ◆受講者登録機能、◆オンライン掲示板による情報交換
  - オープンソースによるシステム構成を用いて、
    - ① ICTリーダー (コンシェルジェ要員) 育成…「みまもり塾」を活用し、地域高齢者の見守りシステムである「ひご優ネット」の運営・管理と「地域見守り委員」及び「介護サービス関係者」への指導的立場の人材育成を実施。
      - 人材のイメージ:一定の資格(ケアマネージャー、認容資格など)を有し、すでに専門的な知識をもって見守り活動を行っている人材
    - ② I C T利活用人材育成…地域の積極的に効果的・効率的に見守りを実施するために、「みまもり塾」を活用しI C Tを利活用できる「地域見守り委員」及び「介護サービス関係者」などの見守り活動の担い手を育成。
      - 人材のイメージ:日ごろから見守り活動に理解を示し、見守り推進者として見守り態勢に参加しておられる人材
- 2 既存のICT人材は住民及びICT技術者には専門以外の受講を実施した

### 3 1で育成等した I C T 人材の活用人数

- 1 出前講座:民生委員 77名、校区社協・包括支援センター・住民(見守り隊員) 12名、 社協職員 5名
  - e ラーニング登録数:55名(NPO職員、ICT技術者、学生、市職員)
- 2 既存のICT人材は 15名 活用

### 4 ICT人材の活用方法

- 1 ICT人材を今回の事業において、主に高齢者の見守り活動、災害時の救援活動において、 見守り推進員となって活用した。
- 2 一定の理解の上活用したことで、継続した育成に結果が出せた。
- 5 次年度以降の I C T 人材の育成・活用内容 (予定)
  - 1 ICTリーダー (コンシェルジェ要員) 育成 地域見守りを進めるためのリーダーとして、先導的な役割を担う事とし ICT 利活用人材の育成に努める。 具体的には出前講座に注力した活動を実施する。
  - 2 ICT利活用人材育成

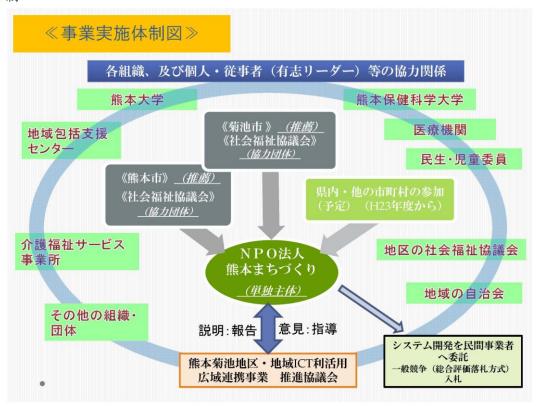
広く、コンシェルジェの指導の下にeラーニングを受講してもらう。 活動の中で、参加・受講者の拡大を担う。

### ②事業運営主体における I C T 人材の育成・活用内容

- 1 ICT人材の育成人数
  - ① 申請主体と同じ
- 2 ICT人材の育成方法
  - ① 申請主体と同じ
- 3 1で育成等した I C T 人材の活用人数
  - ① 申請主体と同じ
- 4 ICT人材の活用方法
  - ① 申請主体と同じ
- 5 次年度以降の I C T 人材の育成・活用内容 (予定)
  - ① 申請主体と同じ

### <実施体制説明書>

### 1 実施体制



### 2 各主体の役割

No	名 称	役 割			
1 NP	NDO汁 能士士+ベノリ	事業主体であり、全体の実施・運営、及び統括・監督、			
	NPO法人熊本まちづくり	指導を行う。			
2	熊本菊池地区·地域 ICT 利活用広	当事業を適正且つ円滑に遂行するための協議を行い、実			
	域連携事業 推進協議会	施・運営に関する指導・助言を行う。			
	**************************************	地域の住民代表として、事業実施・運営に関する指導・			
3	熊本市東部地域自治会連絡協議会	助言を行う。			
4	<b>⇔</b> +□	事業に関係する情報企画課、福祉のまちづくり室が参加			
4	熊本県	して、事業実施・運営に関する指導・助言を行う。			
		事業に関係する地域づくり推進課、情報政策課、地域保			
5	熊本市	健福祉課、高齢介護福祉課が参加して、事業実施・運営			
		に関する指導・助言を行う。			
		事業に関係する生きがい推進課、企画振興課情報システ			
6	菊池市	ム係が参加して、事業実施・運営に関する指導・助言を			
		行う。			
7	熊本市社会福祉協議会	事業実施・運営に関し、専門的指導・助言を行う。			
8	菊池市社会福祉協議会	事業実施・運営に関し、専門的指導・助言を行う。			

### 事業実施進行表

r			T		v:		1
実施内容	平成 22 年 8 月、9 月	10 月	11月	12 月	平成 23 年 1 月	2月	3 月
推進協議会	● (①9/28)					• (2)2/9)	(33/30)
(準備会議)							
情報システム専門部会		•	•	•	•	•	•
福祉介護医療専門部会		•	•	•	•	•	•
人材育成・活用方法の検 討・決定	1	≪教材・研	修内容≫	<b>≪</b> ⊅	容・効果検	討≫	
ICT リーダ人材育成				2 3		⑤ ラーニング?	f用研修≫
ICT 利活用人材活用					2 3		
関連機器・設備、システ ムの検討・決定		-	-				
関連機器・設備、システム等の調達			-				
システム設計 (運用・機能概要)			-	-			
システム設計 (詳細・DB・画面)		2					
システム開発			【入札 <u>:</u> 契約】				
システムテスト						<b></b>	
試験運用					5	-	
システム稼働						2	•
実績報告作成							-

### <推進協議会開催テーマ>

第1回:1)推進協議会発足に係る組織の確認、2) ICT 関連機器やシステム仕様の決定、

3) 事業運営体制、役割分担、費用負担・再委託(入札等)の方法等に付いて

第2回: 1)システム開発中間報告、2)ひご優ネットの全体仕様の決定、及びICT人材育成に付いて検討、3)次年度以降の事業の運用・運営の有り方について検討。

第3回:1) ICT 開発システムの報告(ひご優ネットの説明)、2) 人材育成・活用の報告、

3) 次年度以降の事業の運用・運営の方針決定と課題、4) その他、

### その他

本事業により構築したウェブサイト

[1] <a href="http://portal.higoyou.net/">http://portal.higoyou.net/</a> [ひご優ネット]

[2] <a href="http://www.higoyou.net/">http://www.higoyou.net/</a> [みまもり隊]

[3] <a href="https://www.higoyou.net/el/">https://www.higoyou.net/el/</a> [みまもり塾]

# 《新たな課題の顕在化》

### 事業概要

地域情報のワン・ストップを図り連絡業務の取次を行うシステムを構 築し、地域弱者の見守り情報を有効活用するシステムの開発。

### 期待される効果

独居高齢者の別居家族の安心確保、事故など未然防止を図り、 福祉介護分野の情報化を促進して業務の効率化と新ビジネス の創出。

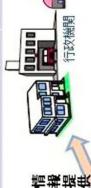


I

ā

TALK THE TALK

【NPO艦本まちづくり】













◎福祉・介護サービス事業所 ◎地域包括支援センタ

**◎医療施設-機関** ●家族



見守り情報連携・提供システム(新規) 位置情報(地図)と連動した見守りの情報を、

要援護者の家族やケアマネージヤー、地域包括支援センター、地域の自治会役員

等に情報提供・連絡を行う。

GIS-GPS存储用

見守りモニタリング

連絡取次の業務 収集·分析·管理· 関係情報の畜積

0分析-管理

データベース

見守 / 精雅の分析

●包括支援センタ

《連絡の流れ、 ユビキタス見守り情報ネッ

福祉連絡システム 地域の異学

見守り情報)

既存(他·事業実施中) (地域ICFFISE用広域連携事業)

見守り搭載から 地域支援底の算出

**地理空間的報と** 

システムを活用した ICT人材育成

Eラーニッグ・

見守リシステム(ひご優ネット)の活用指導 及びICT人材の育成を行い市内外の住民や



30人(非定期)雇用(新規) 地域相談員

## 福祉ICT活用相談センター(新規)

福祉サービス事業者などに広く情報提供し、 地域の安心安全の確保と地域コミュニティの 再生に貢献します。

・ステム(A)地域及や景泉県 ◆ 用高な砂炭の地域(A)からい BAS. RO 200 か置かーピス 5スサム(田)事業条件 MARRIA 格別を配子-9-9-ビス権権 (単純) 本 **2里守り支援・智能システム** (SMESS) P-FORM サービス事業を担信 別も素質調査事業シス サム等 日本福祉公園会 コミュナイナンター 東人会 一・年度 6

## 人材育成写真(6ラニング・出前講座)











第二回協議会写真:(23/2/9)



第三回協議会写真:(23/3/30)



















## 地域を繋がにする見守リネットワーク

## 、サービスの概要 事業/

### 事業:目的

■総務省:『地域 I C T 利活用広域 連携事業』

■≪熊本市: 菊光 市:・・・> 地区·推進協議会 ■介護・福祉・医 療・まちづくりの ■安心・安全な生 活を

■一般住民から専 門家・事業者等が 活用

■近所付合いやコミュニティーの道具

## みまもしポータルサイト

7--1

117

/eラーニング》 《ドーイペーパ》 《みまもり塾、

### 《Web型》 みまもり管理システム

《独立型》



こよる総合的・横断的な分析

# ユビキタスみまもりシステム

《地域住民用》

《モニタリング(居場所確認)システム》 《事業者用》

-NPO法人 熊本まちづくり

### 利用者

生活関連情報の入手

情報技術や福祉介護 関係の学習

上小木一日/です

生活関係指標の算定

見守り連絡システムの

申込み

モニタリング・居場所 確認システムの利用

回



| | |

連絡

《家族:ケアマネジャー:等》

# 《事業の将来日標》

3組織づくり、 【地域社会をシステムで考える】 ②まちづくり、 ①人づくり、

### 地域人材育成(継続)

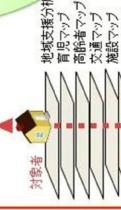
- •地域見守//支援要員
- ・地域まちづくリングルジェの育成
  - ·福祉ICT研修会
- ・福祉ICTマニュアル整備

コミュニティーの再生・地域社会のICT化

地域自治会·社会福祉協議会



- ・Web・GISシステム開発(新規)
  - ・共用空間データの構築(新規)



地域支援分析

福祉情報開発センタ

《継続かな見守り活動》

コピキタス福祉 システムA (地域向)

●研修会開催

・コピキタス福祉

《ICT·1上卡女人 システム開発》

・基盤地図データ作成

• 数材作成

システムB (事業句)

福祉・医療情報の共有・連携

医療福祉機関·介護事業所

• Web-GIS ステム開発

研究開発ソール・プログラム ●福祉介護向(ナンステム

《地域福祉情報の提供》

地域見守り活動

ユビキタス福祉シス テムA(改良)

·GPSによる位置情 報の取得(新規)

QRコード・Felicaの活用

家族関係·民生員·近隣住民

★ 福祉・医療情報の は有・連携活動

介護事業支援

・福祉システムの導入・販売(継続)

・ユビキタス福祉システムB(改良) ・福祉サービス支援研究(継続)

150

熊本大学·熊本県·県内市町村

串刺しによる総合的な分析

地域レップ